



外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 会報

つうしん
通信

No.127
2023-1.1

NEWSLETTER

「日本語でスピーチ」

10月30日に、Minto Ota で国際都市おおた協会主催による「日本語でスピーチ」が開催されました。これは、コロナ禍のために2年間休止していたコンテストの、久々の再開でした。14名の外国つながりのひとたちがみんな、日本語で、多彩な内容のスピーチをしました。その中で、OCNet にほんごのひろば こどもクラスで学習している伴野萌（とものもえ）さんが、堂々、最優秀賞を受賞しました。



受賞スピーチ原稿と、伴野さんを担当しているスタッフの声を、ここにご紹介します。

毎晩、自宅で練習を重ね、水曜日子供クラスのスタッフのアドバイスにも耳を傾け、当日の昼食時、喉も通らないほどとても緊張していました。私は、「スピーチ大会に出場できるチャンスを楽しまなくちゃねえ。」とアドバイスをしただけ。見事、本番、楽しくやり遂げました。これが萌ちゃんなのです。大人のちょっとした一言を自分のものにする能力がある生徒だと確信。わたしも彼女からエネルギーをもらいました。萌ちゃん ありがとう。おめでとう！

望月智子

完成した原稿を見た時、内容が素晴らしいと思いました。私達からは、発表の仕方のみ少しアドバイスをしただけでした。姉の祥華さんから「毎日練習している」と聞いて本人のスピーチに対する努力こそが最優秀賞の受賞に結びついたので私は、実感しました。萌ちゃんおめでとう！！

開田弘子



(左から二人目が伴野萌さん)



(右から二人目が伴野萌さん)

最優秀賞受賞スピーチ原稿「日本で私を変えた出来事」

伴野 萌

みなさん、こんにちは。私の名前は伴野萌です。蒲田中学校の2年生です。中国から2020年10月に日本へ行きました。

最初、日本語が全然わからなく、とても不安でした。先生が何を話しているのかよくわからなかったので、勉強にも前向きに取り組めず、友達もなかなかできませんでした。そんな私を変えた1つのきっかけがあります。それは今年の運動会でした。運動会で私は2つの嬉しいことがあり、そしてそこから学んだ事があります。

1つ目は2年生女子学年種目「出前一丁」の時の事でした。最初の子は4個の箱を持って走り、2番目の子は8個の箱、そして最後の子は48個の箱を持って走るゲームです。運動会本番に向けて、クラスのみんなは一生懸命に練習をしていましたが、本番で私が箱を落とし一位を取ることができませんでした。しかし誰も私を責めないし、嫌な顔をしないで「ドンマイ」「大丈夫」「落ち着いて」などの声をたくさんかけてくれました。私はとてもうれしかったです。私に友達ができたと感じました。

2つ目は全員リレーです。雨が多く、授業中の練習時間も少なかったですが、そんな短い時間の中、みんな一人一人が全力で取り組み、一生懸命練習をしました。それを見て私はとても感動しました。また私は走るのが苦手で、足が遅く恥ずかしいと思っていましたが、その時1人が転んで怪我をしながらも頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思いました。スタートラインに立つとすぐ緊張して、胸がドキドキしました。みんなの応援の声も聞こえなくなりました。何も考えず、ただ一生懸命走りました。

結果は1位。クラス一丸となって、力を合わせて取り組んだからだと思います。苦手なこと

も諦めずに頑張ったからだと思います。優勝できてとってもうれしかったです。友達と「やったね」と一緒に喜び合うことができました。

運動会で私は友達の大切さと努力の大切さの2つのことを学びました。これからは友達をもっと増やし、友達が困っていたら今度は私は力になりたいと思います。勉強も日本語が分からないからと諦めず、できることを増やしていきたいと思います。日本に来たときの私ではもうありません。友達と学校生活を楽しみ、いろいろなことに挑戦していきたいと思っています。

おもな活動報告

■新スタッフ向けオリエンテーション

9月17日(土) 14:45~16:30

会場: mics (大田区消費者生活センター内) 1F 「教室」

参加者: 9名

9/17、mics おおたで3年ぶりに開催されたオリエンテーションに参加しました。

私自身は2020年初めから土曜こども教室に参加させていただいたものの、すぐにコロナ禍で対面授業中止・1年以上の活動休止となったこともあり、正直なところOCNetに所属しているという意識が薄いままでした。

今回、いろいろな事業部の方のお話を伺うことができ、改めて活動内容が少し具体的に見え

たような気がします。

また、ボランティアとしての心構えや『困った日本語ボランティア』についての説明を聞き、自らを振り返って反省する点も多くありました。

これからも学習者さんに寄り添いながら、日本語教育その他の知識を伸ばしていくべく、自己研鑽を積んでいきたいと思っています。

にほんごのひろば G.T.

■東京南部多言語高校進学ガイダンス (品川会場)

10月16日(日) 品川区立中小企業センターにて

来場家族数内訳: フィリピン8 中国7 ネパール3 米国1 パキスタン1 計20

他地域ではコロナ禍のため個別相談に限定して実施される中、大田会場とここ品川会場では、予約制にして「全体説明、先輩談、個別相談」のフル構成で実施。参加者のニーズが高まっていることが感じられ、参加者からも好評でした。

■中国帰国者センター「啓発のつどい」

10月30日(日) 13:00~16:30

会場: 大田区消費者生活センター 大集会室

参加者: 76名 (OCNet 6名: 帰国者30名: 一般参加者28名: スタッフ: 12名)

- プログラム：① 招待者紹介（安原弁護士：国家賠償訴訟団、大田区福祉管理課援護係長）
② 残留孤児、宮崎慶文氏の証言
③ 中国帰国者センターの活動紹介
④ 夕陽江（帰国者グループ）の民族舞踊
⑤ 残留孤児2世、三世の尊厳を求めめる署名活動協力をお願い

帰国者が多く参加される事が事前に分かって
いた為、通訳機器を準備したので、帰国者は内
容理解が出来た様で、良かったです。

証言者、宮崎慶文さんは中国で長く大学教授
をされていました。沢山の恵まれた保障（広い
住宅環境と保障されている給与、尊敬される社
会的地位等）を放棄して、50代後半で帰国し
束縛の多い、生活保護生活に入っています。帰
国が遅くなったのは生後間もない頃から長年、
養育してくれた養父母の介護があったからでし
た。自分が日本人だと分かった時から「自分の
故郷、父や母に会いたい」と思い続けていたの
で、教授の地位を放棄するのに何ら迷いはなか
ったと話しています。永住帰国後は、想像して
いたより過酷な生活が長く続いた為、全国の帰

国者と共に国家賠償訴訟を起こす事を決意し、
6年半の長丁場を訴訟団副団長として取り組ん
できています。この裁判がきっかけとなって
「新、中国残留邦人等自立支援法」が改正され
生活保護費に満額の国民年金が加給される事に
なりました。長年日本語学習に励み、帰国者の
リーダー的存在として現在も通訳活動や中国語
の先生、合唱指導、帰国者向けの介護施設の当
番活動に取り組んでいます。そして現在も「自
分は一体、何処で生まれて、何者なのか」を問
い続けています。「宮崎」という姓は、身元引受
人を引き受けてくれた方の姓を使っているとの
話でした。宮崎さんは「私の中で戦争はまだ終
わっていないし、故郷を探し続ける旅は一生続
くと思います」と話していました。

鈴木洋子

スタッフ紹介

今年の3月から、水曜日の夜の日本語教室のお
手伝いに行っています。

現在は3名の学習者さんを担当しております。

「みんなのにほんご」というテキストで授業
をしておりますが、「どうしたら学習者さんがこ
の課の内容を理解し、知識として定着してもら
えるか」「どうしたら、飽きずに楽しく練習で
きるか」等を念頭に、授業の流れを考えたり教材
を作成したりします。準備にかなり時間がかか
り、はっきり言って大変なときもありますが、

にほんごのひろば 水曜日 S.S.

それでも「ここの授業が楽しい！」と言ってく
れる学習者さんの顔を思い浮かべて、なんとか
毎回やり遂げています。

生まれて初めて、習う側ではなく教える側に
立ちましたが、とても良い経験をさせてもらっ
ています。学習者さんや他のスタッフの方たち
との交流も楽しいです。

今後も長く続けて行き、微力でも日本語を学
ぶ学習者さんたちのお役に立ちたいと考えてい
ます。

発行／一般社団法人OCNet

URL: <http://www.ocnet.jp>

住所：〒144-0051 東京都大田区西蒲田 6-36-14 TTK マンション 1F

Address: 1F, 6-36-14 Nishikamata, Ota-ku, Tokyo, 144-0051

TEL&FAX: 03-3730-0556 E-mail: jimukyoku@ocnet.jp